

社会資本総合整備計画 事後評価書

北陸新幹線開業の効果と地域特性を生かした港と鉄道のまち“直江津”の賑わいの再生

令和 2 年 3 月

新潟県 上越市

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和2年3月

計画の名称	北陸新幹線開業の効果と地域特性を生かした港と鉄道のまち“直江津”の賑わいの再生						重点計画の該当	○				
計画の期間	平成26年度～平成30年度（5年間）		交付対象	上越市								
計画の目標	当市の中心市街地の一つで国内外への海・陸交通の要衝に位置し、子育て・学習関連施設が集約された直江津地区において、北陸新幹線の開業効果を最大限生かせるよう、地域特性を踏まえた拠点施設の整備と機能アップを進め、交流人口と流入人口の増加を図り、市内外の人が行き交い、学びあう「出会いと学びのまち」として再生する。											
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地歩行者数を2,889人/日（H25）から4,050人/日（H30）に増加させる。 上越市立水族博物館入館者数を182,186人/年（H24）から487,500人/年（H30）に増加させる。 直江津地区計画区域に居住する若年人口（65歳未満）を6,912人/年（H25）から6,950人/年（H30）に増加させる。 											
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値		備考			
							当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H30末)			
	5地点（第四銀行直江津西支店前、安国寺通り府中八幡宮付近、直江津駅前通り、直江津郵便局前、旧検察庁跡地前）における歩行者数を測定する。						2,889人/日	3,000人/日	4,050人/日			
	上越市立水族博物館入館者数を調査する。 ※年間の入館者数を合計する。						182,186人/年 (H24)	182,186人/年	487,500人/年			
	直江津地区計画区域に居住する若年人口（65歳未満）を調査する。 ※住民基本台帳に基づき、直江津地区における関係町内会の居住人口を合計する。						6,912人/年	6,912人/年	6,950人/年			
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	4,139.7百万円	A	4,115.8百万円	B	-	C	23.9百万円	D	-	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.6%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期												
事後評価の実施体制						事後評価の実施時期						
上越市（事後評価庁内検討会議）						令和元年度						
						公表の方法						
						上越市HPにて公表						

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	費用便益比 B/C
									H26	H27	H28	H29	H30			
1-A-1	都市再生	一般	上越市	直接	上越市	直江津地区都市再生整備計画（都市再構築戦略事業）	中心拠点誘導施設、既存建造物活用、道路整備 等	上越市						4,115.8		-
合計												4,115.8		-		
B 関連社会資本整備事業（該当なし）																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
									H26	H27	H28	H29	H30			
合計												0				
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
									H26	H27	H28	H29	H30			
1-C-1	イベント・施設整備	一般	上越市	直接	上越市	旧直江津銀行活用促進事業	施設見学会の実施、お休み処の開設等	上越市						0.7		
1-C-2	活動支援	一般	上越市	間接	民間	直江津地区まちづくり会社交付金交付事業	商店街及びまちづくり団体の行う事業への支援	上越市						5.8		
1-C-3	活動支援	一般	上越市	直接	民間	空き店舗等利用促進事業	店舗整備費用の補助等	上越市						4.7		
1-C-4	調査	一般	上越市	直接	上越市	直江津地区中心市街地交通量調査	歩行者等の交通量の調査	上越市						1.4		
1-C-5	活動支援	一般	上越市	間接	市民活動団体	地域活動支援事業（直江津区）	市民団体等の行う事業への支援	上越市						4.2		
1-C-6	調査	一般	上越市	直接	上越市	津波避難施設整備事業	古城地区内への津波避難施設の整備に向けた検討	上越市						2.1		
1-C-7	調査	一般	上越市	直接	上越市	土地利用促進基礎調査	空き地、駐車場、空き家、道路状況などの基礎調査	上越市						5.0		
合計												23.9				

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	基幹事業（A-1）により整備した旧直江津銀行を定期的に公開するとともに、朝市や周辺来訪者等をもてなす「お休み処」、各種イベント等に活用することにより、まちあるきの魅力が増し、来訪者の回遊性が高まる。	
1-C-2	地元商店街やまちづくり団体を支援し、基幹事業（A-1）との相乗効果を生み出す地域活性化策を展開することにより、中心市街地における新たなビジネスチャンスと賑わいが創出される。	
1-C-3	基幹事業（A-1）により流入人口と交流人口が増加する機会をいかし、地元商店街の空き店舗の解消を図ることにより、まちなかに活気を取り戻せる。	
1-C-4	直江津地区中心市街地において、交通量（四輪車、二輪車、歩行者）調査を行い、基幹事業（A-1）等の賑わいの創出効果を把握することにより取組の改善を図る。	
1-C-5	基幹事業（A-1）と一体となって、市民団体等による各種取組を支援し、来訪者をまちなかに呼び込む仕掛けや魅力ある地域づくりを進め、まちの元気を取り戻す。	
1-C-6	海拔が低い古城地区に津波避難施設を設置し、居住環境の安全性を高めることにより、基幹事業（A-1）との相乗効果で居住地域としての質を高められる。	
1-C-7	土地利用基礎調査により、基幹事業等の事業効果検証を行い、今後のまちなか居住推進に向けた施策の検討を図る。	

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業（該当なし）

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関する 交付対象事業の効果の実現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・「エデュテイメント」施設としてリニューアルした水族博物館は、日本海を一望できる人気施設となり、直江津地区への誘客が促進され、交流人口の拡大が図られている。 ・水族博物館の周辺道路は、歩道の新設や幅員の拡幅、見通しの悪いS字カーブの改善や右折レーンの整備により、安全で快適な道路として水族博物館へのアクセス向上と渋滞の緩和が図られている。 ・整備した海浜公園は、市外の園児が水族博物館見学後に昼食の場として利用しているほか、海浜公園の隣地に整備した保育園の園児の遊び場として相乗効果を生み出している。 ・直江津地区まちづくり会社交付金交付事業により、地元商店やまちづくり団体等が中心となって立ち上げた新しい団体（新水族博物館を核とした地域活性化検討会）の企画による、商店街のクーポン付パンフレットの発行や、大学生と連携したお店や観光名所のマップ作製など、水族博物館やまちなかを盛り上げる活動が行われており、まちを元気にしている。 ・なおえつ保育園（中央保育園改築事業）及びライオン像のある館（旧直江津銀行活用促進事業）については、供用開始が平成31年4月であることから、今後、効果の発現が見込まれる。 			
II 定量的指標の達成状況	指標①中心市街地歩行者を増加させる	最終目標値	4,050人/日	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・水族博物館のリニューアルにより来訪者が増加し、直江津市街地の飲食店にも行列ができるなど、賑わいの効果を生んでいるが、来訪者の約85%は車で移動していることから、歩行者の増加にはつながらず、目標値に至らなかった。 ・直江津駅前市有地利活用事業によるマンション等複合施設において、当初計画になかった運転免許センターの誘致に成功したことから、施設が完成する令和2年度以降においては、マンションの居住者に加え、年間約4万人の運転免許センター利用者の来訪が見込まれる。
		最終実績値	2,189人/日		
	指標②上越市立水族博物館入館者数を増加させる	最終目標値	487,500人/年	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・水族博物館は、設計の段階から完成後に管理・運営を行う民間事業者を指定して意見を取り入れることにより、魅力あふれる施設となった。あわせて、民間の知見をいかし効果的にPRを行ったことにより、目標値を上回った。 ・なお、計画時は評価時に開館2年目となる予定であったため、目標値も2年目を想定した値であることから、実績値が大きく上回っている。開館1年目とした場合の水族博物館の目標値は603,500人/年であるが、それと比較しても、目標値を上回っている。
		最終実績値	899,602人/年		
	指標③直江津地区計画区域に居住する若年人口（65歳未満）を増加させる	最終目標値	6,950人/年	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・中央保育園改築事業により海浜公園が隣接する新しい保育園を建設することで、子育て世代の居住地域としての魅力が高まってきており、計画期間後の平成31年4月の開園以降、令和元年12月現在では、通園する園児が1割ほど増加しているが、短期的には若年人口増の効果は得られなかった。 ・なお、直江津駅前市有地利活用事業によるマンション等複合施設において、すでに入居の申し込みがあり、令和2年度のオープン後において若年人口の増加が見込まれる。
		最終実績値	6,319人/年		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗等利用促進事業により、6件の空き店舗が新たな個店として開店し、まちなかの賑わいにつながった。 ・水族博物館のリニューアルにより、関東、北陸方面からの交流人口が増加し、同館のお土産の売り上げが想定の1.5倍の客単価となっている。 ・水族博物館への来訪者が、海浜公園や屋台会館、五智公園などの周辺施設の利用につながっている。
--	---

3. 特記事項（今後の方針等）

<p>○今後のまちづくりの方針</p> <p><賑わいの創出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水族博物館と地域が一体となって水族博物館の盛り上げを行う。 ・水族博物館への来訪者を集客することに成功しているまちなかの店舗を今以上に増やす。 ・水族博物館への来訪者と令和2年度に開設予定の運転免許センターの利用者をまちなかへ誘導する方策を検討・実施する。 ・中央保育園と古城保育園の跡地について、今後のまちづくりに資する土地活用を早期に検討する。 <p><交流人口の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水族博物館のリニューアル費用の積み立てを行い、5年ごとにリニューアルを実施することにより、入館者数の回復を図る。 ・水族博物館と相乗効果の生まれる屋台会館の活用方法を検討する。 ・外国人旅行者がまちなかに訪れやすい環境を作る。 <p><居住人口の増加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかへの居住が進まない原因を調査し、新たな施策の検討を行う。 ・火力発電所等、工場地が近くにある直江津の立地的特徴をいかして関連会社の社員寮や事務所の誘致等を行う。 <p>○津波避難施設整備事業の変更について</p> <p>津波避難施設について、既存施設の適否の検証及び新たな施設の要否、規模、設置場所について調査したが、基準としていた県の津波浸水想定が国の基準に基づき平成29年11月に変更して公表された。これを受け、当市の津波対策について改めて専門家に津波浸水想定解析やボーリング調査、現地踏査などを依頼した結果、津波の発生原因とされる海底活断層の活動リスクは、数千年に1度と極めて低頻度であると考えられ、津波避難施設の建設などのハード対策は、拙速に行う必要がない旨の提言を受けたことから、津波避難施設の建設を見送り、ハザードマップ作成や避難訓練の実施などソフト対策を今後も継続、発展させていく。</p>
--

(参考図面) 市街地整備

